

企画書: 次世代睡眠体験空間「EMORE - エモア -」設立プロジェクト

作成日: 2026年2月5日

作成者: 新規事業開発部 [あなたの氏名]

ステータス: 第1次ドラフト(検討用)

1. プロジェクトの背景と目的

1.1 背景: 現代社会における「脳疲労」の深刻化

情報過多の2020年代後半において、デジタルデバイスへの依存による「脳の慢性疲労」が社会問題となっています。2025年の調査(仮定)では、ビジネスパーソンの約7割が睡眠の質に不満を持っており、短時間で深いリフレッシュを得られる空間へのニーズが急速に高まっています。

1.2 目的

本プロジェクトは、最新のAI技術とバイオフィリックデザイン(自然回帰デザイン)を融合させた、完全没入型の睡眠カフェ「EMORE」を都心に展開し、**「60分で8時間の熟睡に匹敵する回復体験」**を提供することを目的とします。

2. サービス概要

2.1 コンセプト

「脳をゼロにする、1時間の旅。」

単なる仮眠スペースではなく、バイタルデータに基づいた「パーソナライズ・スリープ・ジャーニー」を提供します。

2.2 主要なサービス機能

機能	内容詳細
AIバイタル診断	入店時にウェアラブル端末を装着。心拍、脳波状態から最適な「入眠プログラム」を自動生成。
感覚同期カプセル	振動、温度、調光、音響(ハイレゾ自然音)がユーザーの呼吸と同期し、強制的に深いリラックスへ誘導。

目覚めのハーブティー	覚醒のタイミングに合わせ、AIが最適な成分を配合したアフタードリンクを提供。
------------	--

3. ターゲット層と市場分析

3.1 ターゲットユーザー

- コア層: 20代~40代のITビジネスパーソン。昼休憩や移動の合間に効率的な休息を求める層。
- サブ層: メンタルケアを重視するウェルビーイング層。デジタルデトックスを目的とする人々。

3.2 競合との差別化

- 既存の仮眠室: 設備のみ(ベッド、暗い部屋)の提供。
- EMORE: テクノロジーによる「確実な入眠」と「すっきりとした目覚め」のデータ裏付け。

4. ビジネスモデルと収益計画

4.1 収益源

- 利用料: 60分 3,500円(税別) / 90分 5,000円(税別)
- 月額サブスクリプション: 月4回プラン 12,000円
- 物販: AIが推奨した枕、アロマ、サプリメントの販売

4.2 損益分岐点のシミュレーション(1店舗あたり)

- 初期投資: 4,500万円(内装工事、AIシステム、専用カプセル10台)
- 月間固定費: 250万円(賃料、人件費、光熱費)
- 目標月商: 450万円(稼働率65%想定)
- 投資回収期間: 約24ヶ月

5. ロードマップ

- 2026年3月: コンセプトモデルの完成・プロトタイプテスト
- 2026年5月: 資金調達(シリーズA)および物件契約
- 2026年8月: 渋谷・丸の内エリアにて1号店オープン
- 2027年以降: フランチャイズ展開、企業向け「福利厚生パック」の販売

6. 期待される効果とリスク

6.1 期待される効果

- 利用者の生産性向上による社会的損失(プレゼンティーズム)の削減。
- 「脳疲労ケア」という新しいウェルネスカテゴリの確立。

6.2 想定されるリスクと対策

- リスク: 安全性の懸念(カプセル内での急病など)。
- 対策: 全カプセルに生体センサーを配置し、異常検知時は即座にスタッフが介入するシステムを構築。

7. 結論

本プロジェクト「EMORE」は、2026年の最重要キーワードである「脳のウェルビーイング」に直撃する事業です。単なるリラクゼーションの枠を超え、データに基づいた「パフォーマンス最大化」のインフラとして成長する可能性を秘めています。

以上、本案をご検討いただけますようお願い申し上げます。